

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	敦賀市子ども発達支援センター パラレル 放課後等デイサービス事業所		
○保護者評価実施期間	令和6年12月24日		令和7年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	100 (回答者数)	67
○従業者評価実施期間	令和6年12月24日		令和7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・過ごしやすい(わかりやすい)環境づくり	・活動に合わせて遊び方やルール、手順などについて視覚的な手がかりを用いて説明したり、確認している。	・個室をつくることに限界はあるものの、パーティション等を活用して、少しでも過ごしやすい環境づくりをすすめる。
2	・支援内容や方法の職員間での共有	・毎月の支援会議で各クラスでの取り組みとその経過等について確認している。	・利用児ごとの支援マニュアルの作成。
3	・子育て等に関する不安や悩みへの面談(対応)	・相談支援専門員と連携しながら、面談等を実施。	・左記と同様。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・日々の活動の様子について保護者とやりとりする機会が少ない。	・登録者数が多い。お迎えや送迎時では具体的に伝えられる時間を確保することが難しい。	・事前に活動予定をお知らせしたり、半年ごとの面談(モニタリングやまとめ)のほかに、やりとりする機会をつくる。
2	・放デイのみの土曜日開所時の利用数が少ない。	・土曜日に他事業所を利用されている方も多く、利用時間が短いと参加しづらい。 ・支援度の高い利用児の参加が多くなった場合に、放デイ正職員だけの対応が難しい。 ・登録者数が多く、年齢も幅広いため、どの年代も対象となるような内容の企画や回数の確保が必要。	・活動内容や利用時間など、子どもはもちろん、保護者の方も子どもに参加してほしいと思える内容を企画検討していく。 ・楽しさだけでなく、現在や将来に必要なような内容にしていく視点も必要。
3	・高校(高等部)卒業後の利用先への引き継ぎ	・担当者会議等に参加するが口頭での引き継ぎが多い。	・情報の共有や引き継ぎがスムーズにすすめられるよう引き継ぎシートを作成していく。